

会報

JAIISA

ジャイサ

2026 秋
第88号

JAIISA NOW

合併号



JAIISA NOW合併号 特集 第28回 自動認識総合展

AIとの融合が進む自動認識技術。個別IDの識別からIDと対象の状態を同時に把握する技術へと発展する最新動向や話題の画像認識技術も披露されるなど、多くの来場者の関心を集めました。



特集 第28回 自動認識総合展

第28回 自動認識総合展開催報告

P1

第28回 自動認識システム大賞決定！

P2 - 11

研究開発センターの活動紹介

P12 - 17

「未来のAUTO-IDプロジェクト」の取り組み

P18 - 19



第28回自動認識総合展開催、盛り上がる会場風景

第28回 自動認識総合展 開催報告

AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO 第28回 自動認識総合展

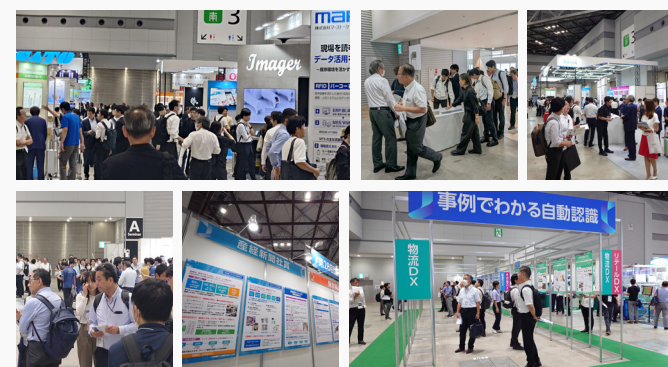
A BRIGHTER FUTURE WITH AUTO-ID

未来をつなぐ AUTO-ID

「見える化から未来化へ。自動認識が拓くDXの現場」

先端技術・ソリューションが一堂に集結

一般社団法人日本自動認識システム協会（JAISA）は、2026年9月9日（水）から11日（金）までの3日間、東京ビッグサイト（南3ホール）にて「第28回自動認識総合展」を開催いたしました。国内唯一の自動認識技術・ソリューションの専門展である本展は、今回で28回目の開催となります。今回は「国際物流総合展2026」との相互入場を実施したこともあり、相互入場者を含めた3日間の総来場者数は11,489人に達し、大盛況のうちに閉幕いたしました。



AIとの融合が生み出す「新たな自動認識」の可能性

製造業をはじめ、物流、流通、医療、サービスなど、あらゆる分野においてデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進が急速に加速しています。その基盤を支える自動認識技術の重要性はこれまで以上に高まる中、近年では、従来の「個別IDを識別する技術」にとどまらず、AI技術と融合することで「IDと対象の態様（状態や行動）を同時に捉えて認識・解析する技術」へと大きな発展の兆しを見せています。

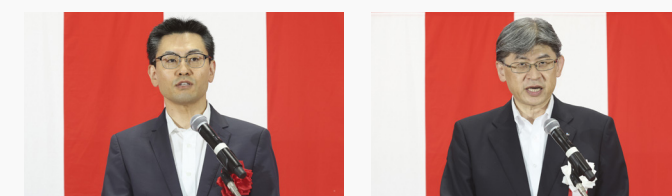
こうした変化と期待に応えるべく、今回は『未来をつなぐ AUTO-ID 見える化から未来化へ。自動認識が拓くDXの現場』をテーマに設定。次世代を切り拓く先端技術と最新事例を幅広く紹介いたしました。

盛況のうちにスタートした3日間

初日の開会式では、来賓を代表して経済産業省産業機械課の是永基樹課長よりご祝辞を賜り、関係者によるテープカットが執り行われました。主催者を代表して当協会（JAISA）の柴谷浩毅代表理事会長は、「自動認識技術は



『モノ』『人』『情報』をデジタル化する基盤技術。DXやAI活用が進む中、リアルタイムで正確なデータを取得する自動認識は、AI時代を支える社会基盤として不可欠です。労働力不足やサプライチェーン高度化に対し、単なる省力化にとどまらず、新たな価値創造を支える技術としてその重要性をさらに高めていきたい」と強く抱負を述べ、熱気あふれる3日間の会期がスタートいたしました。



経済産業省 製造産業局
産業機械課長 是永 基樹 様

日本自動認識システム協会
代表理事会長 柴谷 浩毅

多様な課題解決に応える先進的な展示と企画

会場内では、最新トレンドを反映した先進的な製品・ソリューションが多数披露されました。昨年に続き展開された「画像認識×AIゾーン」には多くの来場者が詰めかけ、飛躍的な進歩を遂げる画像処理技術とAIの統合ソリューションに高い関心が寄せられました。

また、出展企業によるパネル展示「事例でわかる自動認識」では、業種別の具体的な導入事例が紹介され、現場の課題解決に直結するコンテンツとして好評を博しました。さらに「第28回自動認識システム大賞」の受賞作品発表コーナーでは、優れた技術革新と社会実装の成果に熱い視線が注がれました。

現場課題に応える併設セミナー＆最新事例プレゼン

展示会場に併設されたセミナー会場では、GS1 Japan「EPC RFID FORUM」との共同開催による各種セミナーを開催し、多数の参加者が詰めかけ熱心に聴講されました。

また、今年度は新たな試みとして「事例でわかる自動認識ショートプレゼンテーション」を実施。ユーザー業界向けのソリューション提案や導入事例のパネル展示内容を各5分間の集中プレゼン形式で導入効果や成功のポイントを紹介いたしました。終了後に行われた交流会では名刺交換や意見交換が行われ、今後のビジネスに繋がる貴重な交流の場となりました。

第28回 自動認識システム大賞決定！

本年度の自動認識システム大賞も多数の応募を頂き、現場業務の効率化や省人化、品質管理、食品ロス削減など、さまざまな社会課題・業務課題の解決に貢献する実用性の高いシステム事例が数多く寄せられました。なかでも、RFIDを活用した物流・在庫管理・トレーサビリティ分野のDX推進に関する提案が特に多く、本年度の応募作品群を象徴する特徴となっています。

自動認識システム大賞とは

自動認識技術やシステムの発展と普及・啓発を目的として、先進的かつ導入効果が極めて顕著な自動認識技術やシステムを当協会が表彰しています。国内で実用される事例を有する国内の企業、団体、個人が、当協会の会員・非会員を問わず応募できます。

これまでの受賞作品はこちら

https://www.jaisa.or.jp/award_history.php



表彰式では、当協会の柴谷会長が「自動認識技術は生成AI等と融合し、DX推進や人手不足の解消に不可欠な基盤技術となっている。受賞作品が社会課題解決のモデルとして広く活用され、業界と社会の発展に繋がることを期待したい」と挨拶。その後、受賞者への表彰状授与と各賞の受賞記念講演が行われました。



第28回自動認識システム大賞 受賞一覧

※入選作品の表示順は、申請の受け付け順です。

区分	受賞作品タイトル	応募企業	技術
大賞	RFID搭載温度ロガーを活用した医薬品保管庫向け温度管理ソリューション	TOPPAN株式会社	RFID、その他(温度センサー)
		東邦薬品株式会社	
優秀賞	2D LiDARを活用した踏切障害物検知装置	株式会社デンソーウェーブ	その他(踏切障害物検知装置)
優秀賞	画像認識×AGVによるレンタル返却機器の自動仕分けシステム	株式会社NTTロジスコ	画像認識、OCR
産経新聞社賞	国内初 RFID全面導入スマートスーパー — 食品スーパーの全業務工程をRFIDで統合し、効率化・食品ロス削減・社会包摂を同時に実現 —	株式会社LIFE	RFID(UHF帯)
		株式会社ロッキー	
		株式会社ソリマチ技研	
		RFiD plus One	
入選	クラフト醸造酒「在る宵」における2周波対応RFID導入モデル	株式会社天郷醸造所	RFID(UHF/NFC)
		株式会社大和コンピューター	
入選	バッテリーレス電子ペーパーデバイス「ST1037L」による物流DXの推進と高速描画技術の確立	株式会社アイオイ・システム	RFID、表示デバイス、物流ITシステム
		株式会社メディスケット	
入選	QRコードを活用した自治体向け商品券等管理ソリューション(Q-pipit)	株式会社デンソーウェーブ	QRコード
入選	地方自治体での無線機器の入出庫及び常時監視システム	オカベマーケティングシステム株式会社	RFID
入選	UHF帯リーダライタをフォークリフトに搭載したUHF フォークシステム	株式会社マーストーケンソリューション	
入選	消費者参加型商品画像スキャンAI 判定によるバイキング販売ラベル発行システム	株式会社サトー	画像認識

第28回自動認識システム大賞表彰審査委員 (敬称略)

審査委員長 斎藤 英雄	慶應義塾大学 教授	浅野 耕児	GS1 Japan (一般財団法人流通システム開発センター) 理事
大森 洋平	経済産業省 製造産業局 産業機械課 課長補佐	荒木 勉	上智大学 名誉教授
林 祐二郎 代理: 渡邊 真也	総務省 総合通信基盤局 新世代移動通信システム 推進室	市野 将嗣	電気通信大学 大学院情報理工学研究科 准教授
河合 龍一	産経新聞 東京本社事業本部 コンベンション事業部 部長	笹原 美徳	一般社団法人 日本自動認識システム協会 理事

相良 隆義	一般社団法人 日本自動認識システム協会 理事
佐藤 誠	一般社団法人 日本自動認識システム協会 専務理事 自動認識システム大賞予選 審査会委員長

自動認識システム大賞の
審査方法は、

- ①技術の新規性
- ②市場の新規性
- ③企画の新規性
- ④経済的導入効果
- ⑤品質的導入効果
- ⑥利便性
- ⑦公共・社会性
- ⑧環境性
- ⑨導入実績

を採点し、上位10件を
受賞作品に決定しています。

今回の選考では、自動認識技術が単なる識別技術にとどまらず、医療、鉄道、物流、小売といった多様な現場で品質向上や安全確保、生産性向上を支える基盤技術として定着しつつあることが示されました。特にRFIDや画像認識を活用した先進的な取り組みが目立ち、AI時代を支える現場データの収集基盤として、その重要性和今後の市場拡大への期待を感じさせる内容となりました。

ここからは、今年度受賞作品の評価ポイントと作品内容をご紹介します。

受賞作品評価ポイント

大賞

RFID搭載温度ロガーを活用した医薬品保管庫向け温度管理ソリューション

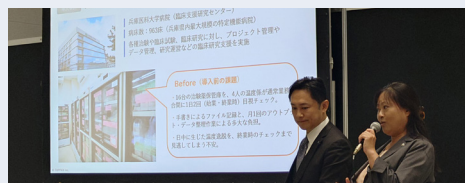
RFID搭載温度ロガーとクラウドを活用し、医薬品保管庫の温度を24時間365日自動管理するソリューション

申請会社: TOPPAN株式会社

共同申請会社: 東邦薬品株式会社

評価ポイント

- 温度管理業務の自動化による工数削減(34時間/月 削減)
- 最短 1 分間隔の記録による管理品質向上と優れた運用性
(温度記録の手書記録の自動化 手間とヒューマンエラーの撲滅)
(本体+外付けセンサにより、扉の開閉なく測温可能)
- 医療インフラを支える公共性の高さ
- 温度逸脱時の即時対応による医薬品ロス削減



優秀賞

2D LiDAR を活用した踏切障害物検知装置

2D LiDAR を活用して踏切内の人や車両、車椅子などの障害物を高精度に検知し、踏切事故の未然防止を実現する踏切障害物検知装置です。

申請会社: 株式会社デンソーウェーブ

評価ポイント

- 従来方式(光線式検知技術)では検知が難しかった事象(黒色・鏡面素材・霧や雨、倒れた人や車椅子、子供や前屈姿勢の老人)も確実に捉える検知性能の高さ
(踏切事故の4割が歩行者 死亡事故の26%が65歳以上)
- 340日間の実証試験で413件の事象を検知し、未検知0件を達成した品質の高さ
- 公共インフラである鉄道の安全性向上と安心・安全な社会の実現への貢献
(実績 全国200踏切で稼働中 鉄道事業者11社)



優秀賞

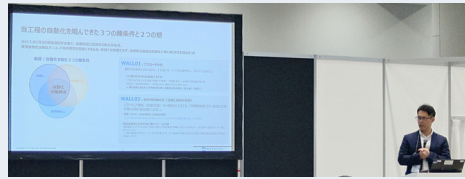
画像認識 ×AGV によるレンタル返却機器の自動仕分けシステム

画像認識と AGV を融合し、識別情報のないレンタル返却機器を自動認識・自動仕分けするシステム。

申請会社: 株式会社NTTロジスコ

評価ポイント

- バーコード構造情報と OCR を組み合わせた独自の認識技術により、高精度な自動識別を実現した技術的新規性の高さ
- 処理能力を従来比 1.45 倍に向上させるなどの経済的効果
- 自動処理完結率 99.68%を達成した高い品質
- 物流現場の省人化と生産性向上に大きく貢献する先進的な事例であること



産経新聞社賞

国内初 RFID全面導入スマートスーパーマーケット — 食品スーパーの全業務工程をRFIDで統合し、効率化・食品ロス削減・社会包摂を同時に実現 —

レジ、棚卸、在庫管理、期限管理、防犯の全業務工程を RFID で統合した先進的な取り組み

申請会社: 株式会社LIFE

共同申請会社: 株式会社ロッキー、株式会社ソリマチ技研、RFiD plus One

評価ポイント

- 国内初となるRFID全面導入スマートスーパーマーケットとして、レジ、棚卸、在庫管理、期限管理、防犯の全業務工程RFIDで統合した先進的な取り組み
- レジ待ち時間の最大80%短縮 → 30~40%の省人化を実現した高い経済性
- 袋詰めと同時に会計が完了する利便性
- 食品ロス削減(20~30%削減)やRFIDタグのリサイクル、高齢者や障害者の雇用創出など、社会的・環境的な貢献度の高さ

※諸事情により表彰式はご欠席されました

大賞

テーマ
★★★

RFID搭載温度ロガーを活用した 医薬品保管庫向け温度管理ソリューション

技術分野 RFID、その他（温度センサー）
申請会社 TOPPAN株式会社 東邦薬品株式会社
対象ユーザ 兵庫医科大学病院 臨床研究支援センター

システムの概要

温度管理ソリューション「オントレイシス®」は、RFIDを搭載した温度ロガーを活用し、医薬品温度管理の自動化・厳格化を目的に開発、温度データの取得とクラウドによる監視・アラート機能および各種レポート出力機能を一体化した温度管理プラットフォームです。すべての医療機関や病院で実施している医薬品が保管されている保管庫の温度管理についての課題を解決し、スタンダードな医療インフラとしての価値を提供するTOPPAN独自のソリューションとなっております。

開発の背景

医療機関や病院では医薬品の保管庫内の温度を「1日に数回、目視で確認し手書きで帳票へ記入する」作業が発生しています。しかし、こうした運用では、作業や情報の分断が生まれ、結果的にクレームや医薬品の廃棄が発生するなど、現場の大きな負担となっております。

一方で高額な医薬品の温度管理については、1日に数回レベルの「点」の管理から、「線」に近い状態で連続して厳格に管理することで、重大な損失を未然に防ぐことができます。現状のアナログな管理では、廃棄による損失のみならず、データ信頼性への疑念や治験スケジュールの遅延といった重大事故を招くリスクがあり、ヒューマンエラーによる品質や信頼の損失についても課題となります。



システムの特長

医薬品保管庫の厳格な温度管理とDX化を実現！

①医薬品の廃棄ロスの低減

1日に数回の管理から最短1分間隔での自動計測により、管理の隙間を減らす厳格な温度管理を実現します。連続的に温度推移を把握することで、異常を即時に検知でき、高額医薬品の廃棄ロスを低減します。

②外部とのセキュアなデータ共有

製薬メーカー等の外部ステークホルダーに対し、利用者のIDやパスワードを開示せず特定の温度データの閲覧を可能にする機能を実装しています。これにより月1回行っていた手作業での帳票提出作業を無くし、業務工数を劇的に削減します。

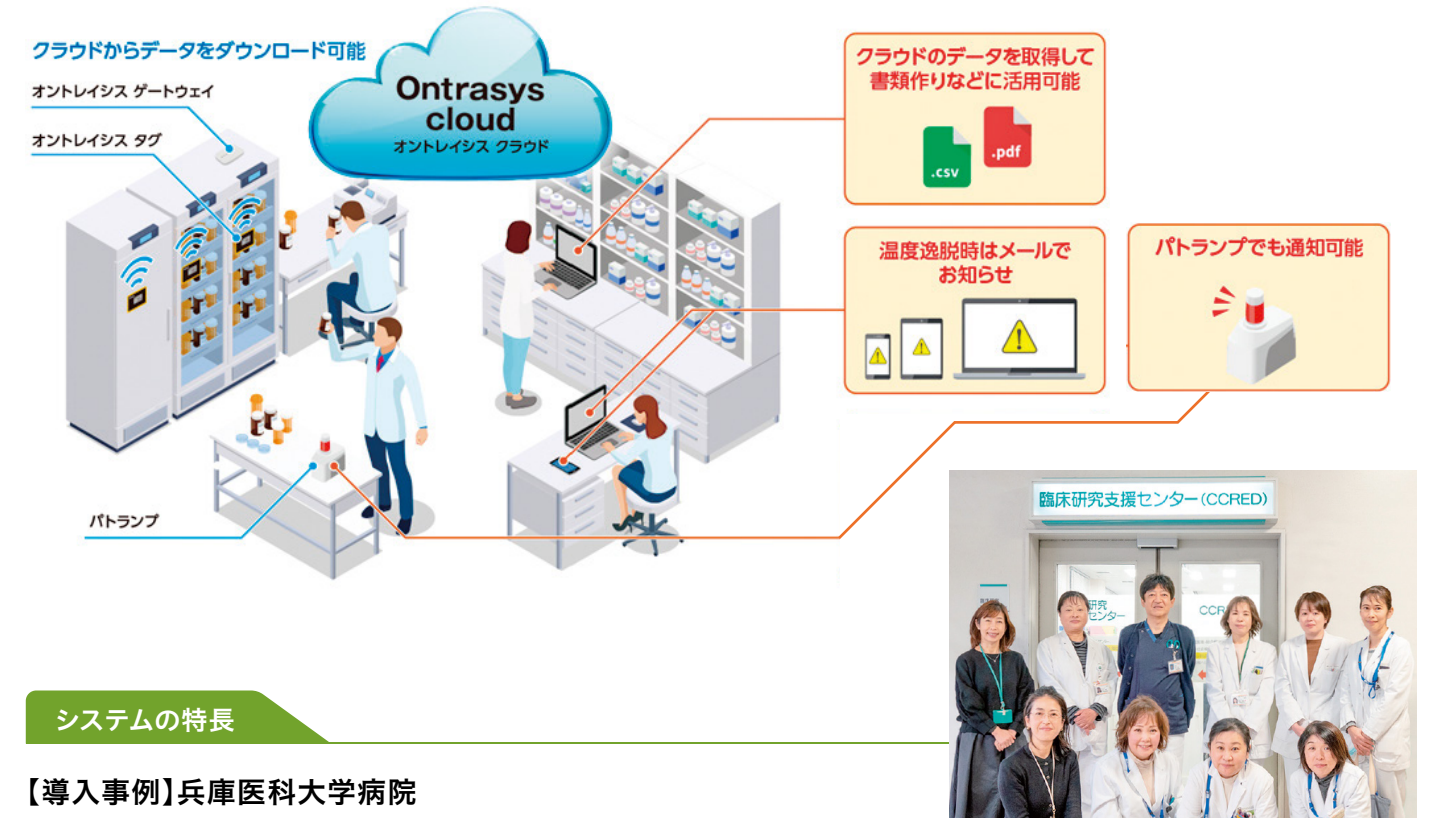


③革新的な温度管理プラットフォーム

温度逸脱によりアラートが発報された時の「パトランプ連携」などの外部機器連携や、温度ロガー「オントレイシス®タグ」内蔵の医薬品専用パッケージ「Xシリーズ」を活用することにより、輸送中・保管中関係なく温度管理可能なシステムの提供など、他社にはない革新的なプラットフォームを提供します。



システム構成



システムの特長

【導入事例】兵庫医科大学病院

①経済的・品質的效果 (Quality & ROI)

5分毎の自動計測へ移行。温度逸脱時の即時アラートメールにより、目視での見逃し不安と高価な医薬品廃棄リスクを払拭。確実な品質保証により、増加する治験依頼へのスムーズな対応が可能になりました。

②従業員満足度向上 (ES)

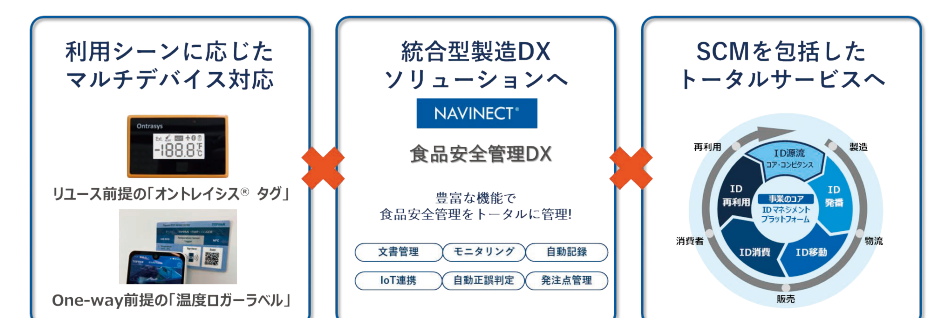
4人の温度係が1日2回（始業・終業時）行っていた、歩行・目視確認作業と手書き転記作業のムダが「ゼロ」に。本来の臨床研究支援業務に集中できるようになりました。

③顧客体験向上 (CX)

製薬メーカー（治験依頼者）側の温度ロガー乱立を解消。クラウドデータ共有により、依頼者自身がタイムリーに必要なデータを取得可能になり、満足度が劇的に向上しました。

今後の展望

TOPPAN 株式会社は、医療現場向けの温度管理ソリューションにとどまらず、食品安全管理などを含む「温度管理」と「製造DX」の実現に向け、サプライチェーンマネジメント (SCM) 全体を包括するトータルサービスへと発展させていきます。



優秀賞

テーマ
★★★

2D LiDARを活用した踏切障害物検知装置 — 自動車技術の非自動車分野への活用 —

技術分野 2D LiDAR、踏切障害物検知装置
申請会社 株式会社デンソーウェーブ
対象ユーザ 鉄道事業者

システムの概要

2D LiDAR が踏切内を「面」で広範囲に検知
デンソーグループのADAS (先進運転システム) 技術をベースに開発



開発の背景

主流である2つの従来方式では交通弱者を含む多様な障害物の検知に限界

257件

2023年の
踏切事故件数

約1/4

踏切死亡事故に
占める
65歳以上の割合

①光線式の課題

線の隙間や低い姿勢は検知できず、そのため人の検知も粗く非常に弱い

②ループコイル式の課題

人・車椅子・非金属物体が検知できず、踏切への埋設工事の負担が課題

自動車分野で磨いた
センシング技術を応用

システムの特長

高精細かつ簡単な設定で、車両・歩行者などの多様な障害物を確実に検知

対向・高さ違いの2台構成

検知範囲を拡大し、従来方式では捉え辛かった車椅子や転倒者など低い障害物も検知。



LiDARの弱点を特許技術(*)で補完

反射しにくい黒色車両や鏡面反射物体に対し、リフレクタからの反射光を監視して遮蔽物を検知。



制御部をLiDAR筐体内に内蔵

従来方式に対しシステム構成を簡素化し、運用・保守負担を低減。ネットワーク異常時もスタンドアロンで運用が可能。



特許技術(*) - ポール検知 -

近畿日本鉄道(株)との共同出願

黒色車両の検知に弱いLiDARの弱点を克服

通常の面での検知と同時並行でポール検知技術を行うことで漏れなく検知

LiDARは通常、リフレクタからの反射光を受けています。車両などの遮蔽物が入ると、反射光が戻らなくなり、道路上の障害物を検知できます。



✓ 検出のしくみ
LiDARはリフレクタからの反射光を監視します。反射光が戻らないとき、道路上の物体を検知します。



導入の効果

従来方式より広い対象を高精度に検知し、経済・品質・運用性を同時に向上

① 経済的效果

重大事故を未然に防ぎ、車両・設備の修繕費、賠償金、輸送障害による収益損失を抑制。安定輸送によって事業価値向上にもつなげる。

② 品質的效果

従来光線式が見逃していた転倒や遮断桿付近で手間取る事象を検知。フィールド試験で高い検知性能を確認。

③ 運用性

昼夜・天候の影響を受けにくく、光軸調整のシビアさも小さい。従来障検からの切り替えや踏切環境の変化に対応した設定変更も施工なしで容易に行うことが可能。

信頼性を支える設計



雨・霧へのロバスト性

300mm/hの豪雨、視程30mの濃霧でも誤検知なく運用継続可能。

安全性評価

鉄道総合研究所の安全性評価を受審し「安全性に問題なし」の評価を取得。

CPU二重化

一方のCPU故障時に、もう一方のCPUが故障アラートを確実に出力する安全冗長設計。

検知エリアの柔軟設定

非接触で面的に踏切内を把握し、現場環境に合わせて検知範囲を設定可能。

フィールド試験の実績

340日間、ある踏切でのフィールド試験

413件

従来障検である
光線式が見逃していた
事象の検知

0件

踏切上の障害物を
「障害物なし」と
誤判定した件数

今後の展望

海外鉄道踏切への展開

国内で培った安全技術と運用ノウハウを活かし、海外鉄道踏切へのビジネス拡大を目指す。

優秀賞

テーマ
★★★画像認識×AGVによる
レンタル返却機器の自動仕分けシステム

技術分野 画像認識、OCR

申請会社 株式会社NTTロジスコ

対象ユーザ 株式会社NTTロジスコサービス 埼玉物流センター

システムの概要

レンタル利用を終えて返却された識別用バーコードのない通信機器（年間約150万個・約300機種）を、カメラの下に置くだけで外観から機種を特定し、AGV（無人搬送ロボット）が仕分け先まで自動搬送するシステム。バーコードの構造情報とAI-OCRで抽出した文字情報を組み合わせることで、使用済み品にありがちな汚れや色褪せの影響を受けにくい安定した認識を実現した。

開発の背景

システム導入前の仕分け作業

- 返却機器はランダムに1個ずつ届き、作業者が機器を見て機種を判別していた
- 1個あたり計約55秒。これを1日約6,000個分、1個ずつ繰り返していた
- 仕分けに使える識別用バーコードがないため、判別は機種の外観・商品名表示などを読み取った作業者の記憶に依存（習得に約1年かかっていた）
- 判別後、機種コードをWMS（倉庫管理システム）へ手入力。さらに別の作業者が現物を抱えて仕分け間口まで歩いて運ぶ作業
- 受け入れ時にラベルを貼れば自動化できるが、貼付作業自体が新たな人手作業になる

解決策 「機種の判別」と「運搬」をあわせて自動化

- 作業者が記憶に頼っていた「機種の判別」は、本体の外観を読み取る画像認識に置き換え（識別ラベル貼付は不要）
- 「WMS登録」は、API連携で自動化、さらに「仕分け間口まで歩いて運ぶ」作業は、AGVによる自動搬送に置き換え。作業者はAGVに機器を置き撮影ボタンを押すだけ

システムの特長

識別用バーコードのない返却機器を、「見えている情報」だけで機種を特定する

①1回の撮影で、文字とバーコードを同時に読み取る

本体の外観に印字された型番などの文字と、複数のバーコードを、撮影した1枚の画像からまとめて読み取る。

②2つの読み取り結果を突き合わせて機種を確定

誤読しうる文字の読み取りを、確実性の高いバーコードで裏付ける。バーコードは読み取り値に加え、シンボルの種別・個数、データ桁数という「構造」情報も機種の特徴として使う。

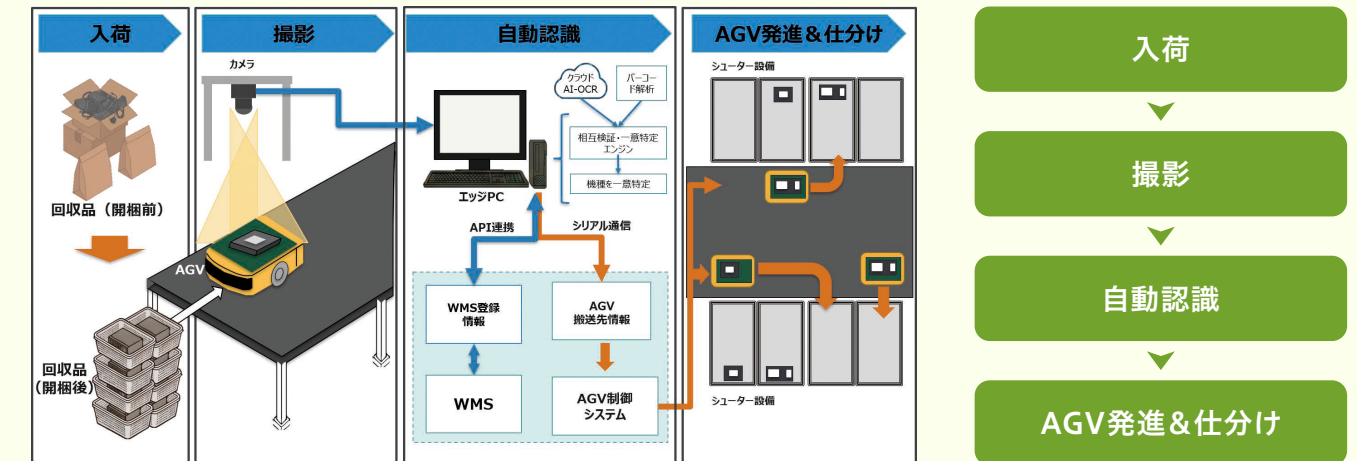
③汚れ・キズによる誤読を許容する設計

機種ごとに複数のキーワードとNG条件を登録するなど工夫し、一部が誤読されても他のキーワードで特定できる冗長性を持たせた。

④外観を丸ごと学習するAI（ディープラーニング）は採用せず

文字認識にはAI-OCRを活用する一方、機種判定そのものは学習型AIに依存しない。学習型では新機種のたびに再学習が必要だが、本方式はマスタ追加だけで対応でき、稼働を止めずに拡張できる。

システム構成



カメラで撮影した画像をエッジ制御PCが処理し、クラウドAI-OCRとバーコード解析の結果を相互検証して機種を特定。確定した情報をWMSに登録すると同時に、AGV制御システムへ搬送先を指示。AGVがシューター間口まで自動搬送する。

導入の効果

経済的效果

- 1個あたりの作業時間 **55秒 ▶ 33秒**
システムへの登録作業と歩行をなくした
- 仕分けの教育期間 **約1年 ▶ 約1日**
約300機種の暗記が不要に

品質的效果

- 自動で仕分けが完結した割合 **約99%**
残りは人手へ回すフェイルセーフ設計
- 対応機種 **300種類以上**
撮影から搬送開始までを高速に処理

稼働実績

株式会社NTTロジスコサービス 埼玉物流センター 行田南倉庫 / 2025年9月本格稼働
AGV27台・投入口4ライン・シューター間口150
年間約150万個を処理 / 最大処理実績 8,700個/日

応用例（今後の展望）

技術の横展開

- 出荷工程にも、入荷時と同じ「見えている情報だけで機種を特定する」仕組みを適用済み。入荷から出荷まで一貫して、識別ラベルを貼らずに業務を回している
- NTTグループ内や他の通信事業者のレンタル回収品にも、同じ仕組みの展開を推進
- 複数顧客・複数種類の機器が混在する環境にも対応可能な多目的ラインへの拡張
- 識別情報のない物品を扱う、同じ課題を持つ他分野の物流への応用

社会的価値

- 返却品を再生して再び使う（リファーマービッシュ）業務の入口にあたる仕分け工程を自動化したことが、次の3つの価値につながっている。
- 社会インフラの下支え：年間約150万個の通信機器の再生・再供給を支える
- 循環型経済の加速：自動化が困難とされた静脈物流の仕分けを効率化し、資源の再利用を促進
- ホワイト物流の具現化：暗記と歩行を排除し、年齢・性別・経験年数を問わず働ける現場を実現

産経新聞社賞

テーマ
★★★

国内初RFID全面導入スマートスーパーマーケット “速いレジ”ではなく、食品スーパーの未来を再設計する実装です

技術分野	RFID(UHF帯RFID／小売業DX)
申請会社	株式会社 LIFE / 株式会社ロッキー / 株式会社ソリマチ技研 / RfiD plus One
対象ユーザ	株式会社ロッキー
テーマ	食品スーパーの全業務工程をRFIDで統合し、効率化・食品ロス削減・社会包摂を同時に実現

システムの概要

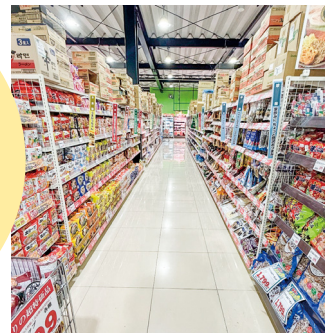
商品にRFIDタグを付与し、レジ・棚卸／検品・在庫／期限管理・自動値引き・防犯・タグ回収を個品IDで一気通貫。既存POSとRFID対応OCXドライバを連携し、店舗運営全体を一つの「OS」として動かす国内初の実装。

開発の背景

スーパーの現場にある4つの“詰まり”

- 人手不足** 棚卸・検品・値引き・レジに負荷が集中
- 食品ロス** 期限管理と値引きの遅れが廃棄を生む
- 待ち時間** 会計行列が顧客体験を損なう
- 働く場** 多様な人材が担える仕事設計が不足

必要だったのは、
「一点改善」ではなく
店舗運営全体を
つなぐ仕組み。



ロッキースーパーストア清水店から始まった挑戦は、会計スピードだけを改善するものではありません。人手不足、食品ロス、待ち時間、働く場の不足を、個品IDでつながる店舗運営へ転換する取り組みです。

技術は、人のために。

RFIDを、効率化の道具で終わらせず、顧客・現場・地域・環境の価値を同時に更新する仕組みにしました。



RFIDを「会計技術」ではなく、店舗運営のOSにする

個品IDが、売場・会計・在庫・期限・防犯・リサイクルをつなぐ

システムの特長

一つのタグが5つの価値を生む



一つの個品IDが、店舗内の情報を分断せずに流れるため、棚卸・値引き・会計・防犯を同じ情報基盤で動かせます。

レジ待ち短縮

一括読み取りで顧客体験を改善

棚卸・検品省力化

従業員負担と確認作業を削減

在庫・期限可視化

期限管理と自動値引きを連動

防犯強化

商品通過をリアルタイム検知

タグリサイクル

回収・再利用を運用に組み込み



売場スキャン

実装機器・現場連携

回収・再利用設計

解決策

既存POSを活かして、店舗全体へ拡張

POS
アプリケーション



RFID対応
OCXドライバ

新しい機器を置くだけではなく、既存システムを活かしながら、レジ・棚卸・期限管理・防犯・リサイクルまで拡張できる設計。これにより、単店のPoCではなく、全国展開へ進められる実装性を確保しました。

成果は、数字で出ています。そして、人に残ります。

効率化の数字と、社会価値の数字が同じプロジェクトから出ている

導入の効果

ロッキースーパーストア清水店での実証効果

80%
レジ待ち時間
最大短縮

30-40%
省人化
棚卸・検品

20-30%
食品廃棄量
削減

15名
新規雇用創出

単なるコスト削減ではなく、顧客体験・現場負担・食品ロス・地域雇用を同時に更新した点が、この受賞作品の価値です。

人に効くDX

効率化の先に、働ける場所が生まれた

▼「前より仕事が楽になった」▼

重い荷物や複雑作業の負担を低減

▼「ミスを気にしなくてよかった」▼

RFIDが読み取りを支援し心理的負担を軽減

▼「私にもできる仕事がある」▼

タグ貼付・仕分けなど新しい役割を創出



自動化は、人を置き換えるだけではありません。人が安心して働ける仕事を設計できることを、食品スーパーの現場で示しました。

サステナビリティ

食品ロスも、タグも、“捨てない”仕組みに



リサイクルを後付けにせず、
最初から店舗運用に組み込みました。

食品廃棄量
20-30%削減

タグ回収・
再利用フロー

応用例・今後の展望

ロッキー清水店から、日本の食品スーパーへ

2025

清水店で実証

2026

熊本県内全28店舗へ

2027

九州全域へ展開

2030

全国500店舗ネットワークへ

単店の成功で
終わらせず、
チェーン展開を前提に
した社会実装へ。

技術は、人のために。

▼ バーコード部会 ▼

バーコードはさまざまな分野で使用され、企業における業務の効率化や生活の利便性をも向上させる手段となっています。
バーコード部会は、社会のインフラとして存在するバーコードの更なる発展を目指し活動しています。

▶ 会員数：51社（2026年7月現在）

▶ 会員構成（重複あり）

プリンタ	32社
リーダ	33社
サプライ	34社

▶ バーコード製品の市場売上構成（2025年統計調査）

プリンタ	45,929百万円
リーダ	23,444百万円
サプライ	128,002百万円

❖ マーケティンググループ

隔月で情報交流会を開催し、会員間の交流を促進

▼ 会社/商品紹介（隔月）

会員企業による会社/商品を発信、共有し、ビジネスチャンスを拡大

▼ セミナー（隔月）

- ・ 会員が興味を持つテーマに沿って講師を招き、最新技術、業界動向に触れ知見をアップデート
- ・ バーコードに限定せず、RFIDや画像など業界のトレンドも対象とする

▼ 見学会（年1回程度）

自動認識技術のユーザー企業を見学し、ビジネスの参考とする

▼ 懇親会（隔月）

会開催後、新年会など企業間交流の場を持つ

▶ バーコード部会

部 会 長：石田 憲政（株）サトー

副 部 会 長：羽切 敏明 東芝テック(株)

副 部 会 長：藤川 正寛 オムロン(株)

マーケティンググループ	グループ長	石田 憲正	(株)サトー
	副グループ長	羽切 敏朗	東芝テック(株)
	副グループ長	藤川 正寛	オムロン(株)
バーコード技術グループ	グループ長	藤川 正寛	オムロン(株)
	副グループ長	渡辺 友弘	(株)デンソーウェーブ

❖ バーコード技術グループ

▼ TR24720（DPM技法）

改訂中：2026年10月の国際会議でDTR投票開始を決議予定

▼ JIS X 0520

（バーコードシンボル印刷品質評価仕様一次元シンボル）
改正済

▼ JIS X 0526

（バーコードシンボル印刷品質評価仕様二次元シンボル）
改正準備中

▼ 正しい印字と読取のためのガイドライン

改訂済

開催	講演内容	講演者
25年 9月	『サトー様 サステナビリティへの取り組みについて』	株式会社サトー サステナビリティ推進部 部長 高島 哲也 様
		株式会社サトー 国内営業本部 新市場戦略部 エキスパート 坂上 充敏 様
26年 1月	『JAISA事務局製作協力番組視聴』	番組タイトル：『The世代感』 テレビ朝日
3月	『医療関係における自動認識の現状と今後』	(一社)日本自動認識システム協会 東條 義彦 様
5月	『都営地下鉄におけるQRコードを活用した乗車サービスの導入について』	東京都交通局 電車部 企画専門課長 大塚 淳 様
	『鉄道における乗車券のQR化のご紹介』	株式会社東芝 セキュリティ・自動化システム事業部 交通自動機器システム技術部 杉本 勇一 様
7月	『社会と経済を支えるサプライ市場：いま何が起きているのか』	ラベル新聞社 編集部デスク 上田 勇人 様

❖ RFID部会 ❖

RFID部会は、標準化、普及活動に積極的に参画し、JEITA(SC31)を通じRFID関連の標準化に寄与していきます。
最新の情報を発信して市場の活性化を図り、また、会員相互の親睦を深め部会活動を活性化させます。

▶ 会員数：118社（26年7月現在）

▶ 会員構成（重複あり）

RFタグ関連	36%
リーダライタ	27%
RFID関連機器	22%
Sler	6%
ユーザ	1%
その他（コンサルタント等）	8%

RFID部会はJAISAの部会の中で最も会員が多く、
情報交流会には毎回100名以上が参加し
活発な交流を行っています。

❖ マーケティンググループ

マーケティンググループは、参加する会員間の交流や、
技術・市場動向などの情報共有を目的として、情報交流
会や見学会を定期的に開催しています。業界の課題や
問題を提起・検討する場でもあります。

❖ RFID技術グループ

RFID技術グループは、RFタグ、RFID機器及び関連する
ソフトウェア、システムメーカーが主要メンバーとなり、
RFIDの技術的側面に関しての普及阻害要因の解消に
向けた活動を行います。

▶ RFID部会

部 会 長：紀伊 智顕 アビームコンサルティング(株)

副部会長：内村 淳 SGシステム(株)

副部会長：竹本 直也 (株)リコー

マーケティンググループ	グループ長	紀伊 智顕	アビームコンサルティング(株)
	副グループ長	金澤 一志	IDEC AUTO-ID SOLUTIONS(株)
	副グループ長	中野 茂	大日本印刷(株)
	副グループ長	西橋 蘭	東芝テック(株)
	副グループ長	荻上 逸人	ダイオーエンジニアリング(株)
RFID技術グループ	グループ長	内村 淳	SGシステム(株)
	副グループ長	三上 慎一	(株)サイレンスネット
	副グループ長	山田 隆男	大日本印刷(株)
アプリケーション技術グループ	グループ長	竹本 直也	(株)リコー
	副グループ長	大塚 裕	エクサコンサルティング
	副グループ長	清水 博長	東洋製罐(株)

❖ アプリケーション技術グループ

アプリケーション技術グループは、SCM等における自動認識技術を用いたアプリケーションの国際標準及び国内標準の制定・改訂に関わる審議を行います。

また、RFIDの最適活用を促すため「RFID活用ガイドライン」「ケーススタディ」等の作成と普及啓発活動を行います。

RFIDに関する
各種ガイドラインはコチラ



情報交流会の講演（2025年度）

開催	講演内容	講演者
25年 4月	鉄道軌道保守作業用工具の跡確認(置忘れ防止)へのRFID技術応用検討	(株)宮川製作所
	合成紙 ユボ®に直接アンテナ印刷および直接IC実装したRFIDラベルの提案 見えない電磁波を可視化する	(株)ユボ・コーポレーション 金沢大学
6月	ISO/IEC 18000-64規格と製品紹介	(株)eビジネスソリューション
	「おくだけボード」と関連製品のご紹介	(株)アートファイネックス
	RFID技術グループ2024年度ガイドライン改訂WG活動報告	RFID部会 RFID技術グループ
8月	次世代RFIDとその大きな可能性～沖縄で製造するメタリキタグとその機能的タグの性能と応用について	(株)弥栄、(株)オキタグ
	RFIDアライアンスの製品	(株)RFIDアライアンス
	バッテリーレスUHF帯RFIDセンサタグ	LP&D Laboratory
	合成紙 ユボ®に直接アンテナ印刷および直接IC実装したRFIDラベルの提案 -第2報- 射出成形および貼り替え防止用途	(株)ユボ・コーポレーション
10月	スマート金型管理システム	(株)昭芝製作所
	新たなRFIDのサプライチェーン適用規格 JIS X 0560 のご紹介	RFID部会 アプリケーション技術グループ
	「RFID」×「ブロックチェーン」×「AIエージェント」の三位一体で実現する国際標準規格に準拠したDPPの世界観	サイカルトラスト(株)
12月	RFID活用時における「電磁環境空間」の考え方	光洋産業(株)
	自動車部品メーカー様へのRFID実装展開の現状と課題	五十鈴ビジネスサポート(株)
	ISO/IEC 18000-65を用いたセンサRFIDシステム	慶応義塾大学
26年 2月	エブリ株式会社 会社紹介	エブリ(株)
	会社紹介とウォレット対応リーダのご提案	ジューエルソリューションズ(株)
	透明なのに、電波を操る。RFIDの常識を変える透明導電性フィルム【FineX】活用最前線 ～透明RFIDタグという新たな選択肢～	パナソニックインダストリー(株)

▼ バイオメトリクス部会 ▼

バイオメトリクス(生体認証)技術は“究極の本人認証技術”であり、パスポートや国民ID(免許証、マイナンバーカード等)やB2B2C市場で広く普及してきています。本部会ではバイオメトリクス市場の更なる成長、バイオメトリクス技術の普及促進のために活動をしています。

▶ 会員数：21社(26年7月現在)

▶ 会員構成(重複あり)

生体認証プロダクトベンダー	28%
生体認証Sier	52%
ユーザ	1%
その他(コンサルタント等)	19%

▶ バイオメトリクス部会

部会長：田辺 健 日本電気株式会社

▶ マーケティンググループ

グループ長：山崎 徹 富士通株式会社
副グループ長：今井 勉 株式会社日立製作所

▶ 精度評価技術グループ

グループ長：高橋 健太 株式会社日立製作所

バイオメトリクス部会は会員企業(21社)を中心に国内SC37専門員会(情報規格調査会・バイオメトリクス)や、産・官・学の生体認証有識者と連携し、誰もが安心・安全・便利に様々なICTサービス利用できる生体認証の社会の実現・普及に向けた活動に取り組んでいます。

▼ マーケティンググループ

バイオメトリクスの普及促進に向け、参加する会員間の交流や、技術・市場動向等の情報共有する活動、また、産業界に共通し、共同で解決すべき技術課題の解決に向けた活動、ならびにグローバルな普及にとって必要な国際標準化活動や各国のバイオメトリクス関連組織との連携活動を実施しています。

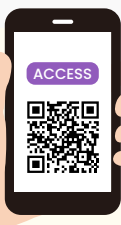
▼ 精度評価技術グループ

バイオメトリクス製品の精度評価に関連して企業に横断てに存在する課題の解決のため、精度評価方式の研究開発、国際標準化の推進、検討委員会、研修会や人材育成などを行っています。

▼ 開発に取り組んでいる国際標準化規格

- ・『ISO/IEC 24714 バイオメトリクス — バイオメトリクスの法域を超えた社会的側面 — 一般的なガイダンス』
令和8年度 経済産業省委託事業
- ・『ISO/IEC 26247 画像合成サンプルを用いた性能試験のための適用性評価方法』

バイオメトリクス部会に関する詳細はこちら



バイオメトリクス部会の主な活動(2025年度)

開催	活動内容	部会・グループ会
25年4月	幹事会 2024年度部会活動報告と2025年度活動案について報告と検討	バイオメトリクス部会
	第1回 精度評価技術グループ会 2025年度活動の活動の開始	精度評価技術グループ
5月	部会総会 昨年度活動成果と今年度活動計画案審議	バイオメトリクス部会
	第1回 画像合成検討委員会 『画像合成手法を用いた生体認証性能評価方法に関する国際標準化』の活動を開始 2025年度受託事業(3年目)	精度評価技術グループ
6月	第1回 異業種連携検討委員会 異業種連携生体認証プロセス国際標準化検討の開始 2025年度受託事業(2年目)	マーケティンググループ
	第2回 精度評価技術グループ会 SC37国際会議に向けた提案内容の検討	精度評価技術グループ
7月	幹事会 開催セミナー企画検討(国際標準化、ビジネス実践など)	バイオメトリクス部会
	第2回 画像合成検討委員会 SC37国際会議の提案内容・説明資料のブラッシュアップ	精度評価技術グループ
8月	第2回 異業種連携検討委員会 異業種連携生体認証プロセス国際標準化検討 国際会議報告他	マーケティンググループ
	第3回 精度評価技術グループ会 SC37国際会議に向けた提案内容の検討 国際会議報告他	精度評価技術グループ
9月	デジタル倫理ワークショップ東京開催 利用者が安心して利用できる生体認証プロセスについてモデルを想定し、配慮すべき点を討議	マーケティンググループ
	第3回 画像合成検討委員会 SC37国際会議のNP(New work item proposal)提案の推進	精度評価技術グループ
10月	デジタル倫理ワークショップ札幌開催 利用者が安心して利用できる生体認証プロセスについて地場観光モデルを想定し、配慮すべき点を討議	マーケティンググループ
	第3回 異業種連携検討委員会 異業種連携生体認証プロセス国際標準化検討 適用性評価検討 他	マーケティンググループ
11月	第4回 精度評価技術グループ会 SC37国際会議に向けた提案内容の詳細検討	精度評価技術グループ
	生体認証国際標準化セミナー2025 生体認証を取り巻く課題や標準化の動向をわかりやすく期間配信型ウェビナーとして解説 全10講演	マーケティンググループ
12月	第4回 画像合成検討委員会 NP提案審議後のSC37国際会議(ニューヨーク)に向けた対応について検討	精度評価技術グループ
	第4回 異業種連携検討委員会 異業種連携生体認証プロセス国際標準化検討 SC37国際会議(ニューヨーク)に向けた対応について	マーケティンググループ
26年2月	第5回 精度評価技術グループ会 SC37国際会議に向けた提案内容の詳細検討	精度評価技術グループ
	デジタル倫理ワークショップ博多開催 利用者が安心して利用できる生体認証プロセスについて地場観光モデルを想定し、配慮すべき点を討議	マーケティンググループ
26年2月	第5回 異業種連携検討委員会 異業種連携生体認証プロセス国際標準化検討と今年度活動の締め	マーケティンググループ
	第5回 画像合成検討委員会 SC37国際会議のNP(New work item Proposal)提案の推進と活動の締め	精度評価技術グループ

▼ システム部会 ▼

自動認識技術を活用したシステム事例や新しい自動認識技術の理解を深め、そのシステムへの応用を図り、自動認識技術の発展に役立てることを目的として活動します。

▶ 会員数：49社(26年7月現在)

▶ 部会幹部

部会長：柳下 典男 トーヨーカネツ株式会社
副部会長：角野 久 株式会社サトー

▼ 活動内容

国内事例に限らず海外も含めた自動認識の先進的な活用事例をテーマとして年間を通じたセミナーを企画・立案し、情報提供を行う。
先進的システムを導入されているユーザーのシステム見学会を企画・開催し、自動認識ユーザーと意見交換を行うことで、システムとオペレーションの理解を深める。最新の自動認識技術活用動向とユーザーニーズの把握に努める。

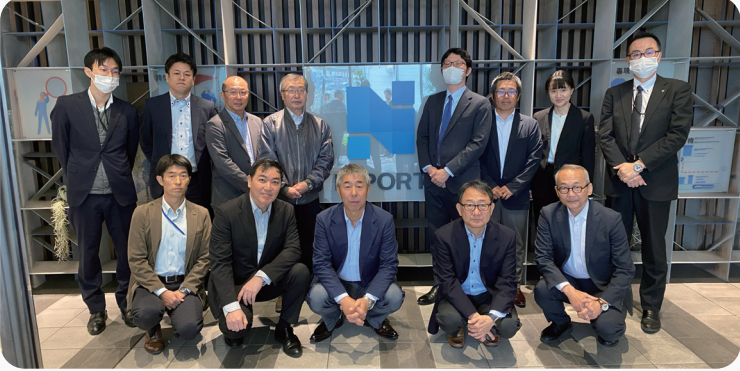
▼ 2025年活動実績

▼ ユーザ見学会

- 先進的システムの導入現場を見学、意見交換を実施
- ・25年9月 株式会社ZOZO ZOZOBaseつくば3楼
- ・25年11月 日本出版販売株式会社 N-PORT新座楼

▼ 自動認識システム導入事例集の更新

協会Webサイトに掲載している自動認識システム導入事例集の更新



▼ 2026年度活動テーマ

自動認識技術とAIなどの最新技術を活用してDXを実現するための自動認識システムの実践的な活用を参加者の皆様とともに学びます。
セミナー、見学会、意見交換会を通じて、技術やその活用に関する最新トレンドを捉え、新たな価値創出の可能性を探求することで、次世代のシステム構築に貢献します。



自動認識システム導入事例集はこちら



情報交流会における講演

開催	講演内容	講演者
5/22	GLORY with a new STORY グローリー株式会社 会社概要	グローリー株式会社様
	製造DXの誤解と成功要因 ～DX=Dを超えて～	一般社団法人製造DX協会様
7/24	現場DXを加速するスマートグラス画像AI & マルチモーダル動画ソリューション	株式会社ムクイル様
	物流の未来を支えるテクノロジーの進化とロジスティクス・エージェントの可能性	株式会社セイノー情報サービス様
1/22	サーキュラーエコノミー推進に向けた個別識別子のあり方について	アビームコンサルティング株式会社様
	生成AIによるソフトウェア開発『AI駆動開発』の最前線と今後	クリエーションライン株式会社様
3/26	エブリ株式会社 会社紹介	エブリ株式会社様
	RFタグ内蔵スマートデニムによる次世代ファッション情報基盤	株式会社MILKBOTTLE SHAKERS様

❖ 医療自動認識プロジェクト ❖

医療用医薬品や医療機器等へのバーコード利活用促進や、今後市場拡大が想定される福祉・介護・在宅医療等の地域包括ケアシステムへの自動認識技術の利活用促進など医療関係への自動認識技術の更なる利活用を目指し活動しています。

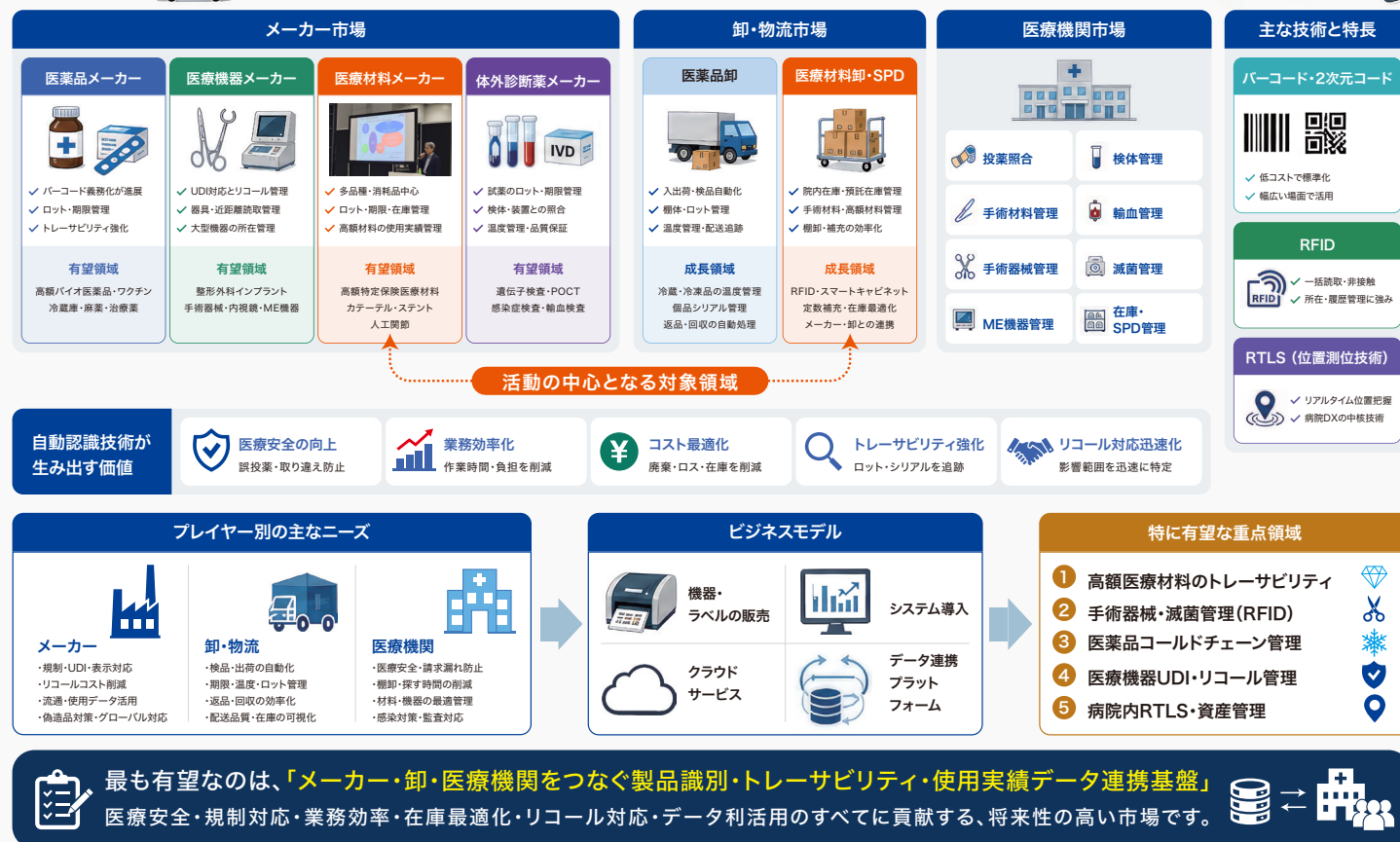
会員数：41社（26年7月現在）

▶ 部会幹部

プロジェクト長：黒川 忠嗣 小林クリエイティブ株式会社
副プロジェクト長：岩崎 英明 株式会社マーストーケンソリューション

医療分野の自動認識技術市場の全体像

メーカー・卸・医療機関をつなぎ、医療の安全・効率・価値を高める成長市場



❖ ユーザー見学会

東海大学医学部付属病院
所在地：神奈川県伊勢原市
見学会実施日：2025年11月18日(火)
参加企業：7社
参加者数：8名

❖ プロジェクトでの講演

「解説!GTINに関するよくある誤解集」GS1 Japan 稲場彩紀様
「医薬品業界の動向」株式会社マーストーケンソリューション
「病院におけるGS1バーコードの利活用」
東海大学医学部付属病院 澤田真如先生
「AIスマートグラスが切り拓く現場DX」株式会社ムクイル

❖ 医療分野関連団体の参加状況

- ・GS1ヘルスケアジャパン協議会
- ・日本医療機器産業連合会（UDI委員会/運用分科会）
- ・医療材料統合流通研究会
- ・SIP第3期B-5チーム（内閣府が進めている戦略的イノベーション創造プログラム）
- ・日本SPD協議会

❖ 画像認識プロジェクト ❖

画像データを活用し、AIによる推定情報と自動認識による確定情報を融合することで、人手不足時代の業務に求められる判断精度の実現とDXへの貢献を目指します。
また、AI×ID活用の指針策定、標準化、事例創出、実践的な業務活用モデルの普及を通じて、AI時代の自動認識を提案します。

▶ 会員数：38社（26年7月現在）

▶ 画像認識プロジェクト

コミュニケーショングループ長：駒崎 岳夫 富士フイルムイメージングシステムズ(株)
プロトタイピンググループ長：砂川 寛行 理想科学工業(株)



❖ コミュニケーショングループ活動

- ・「画像認識サービスのトレンド」と「市場ニーズ」をテーマに情報を収集・整理し、プロジェクト全体で活用できるナレッジとして共有。
- ・画像認識ソリューション導入・活用企業、AI画像認識ベンダー、展示会への訪問を通じて、現場課題や最新動向を収集・共有。
- ・会員企業間の交流・マッチングを促進するため、活用事例や市場動向をテーマとしたセミナー・講演会を企画・開催。

❖ プロトタイピンググループ活動方針

画像認識AIの操作体験やプロトタイピングを通して、画像認識AIの知識を深耕する

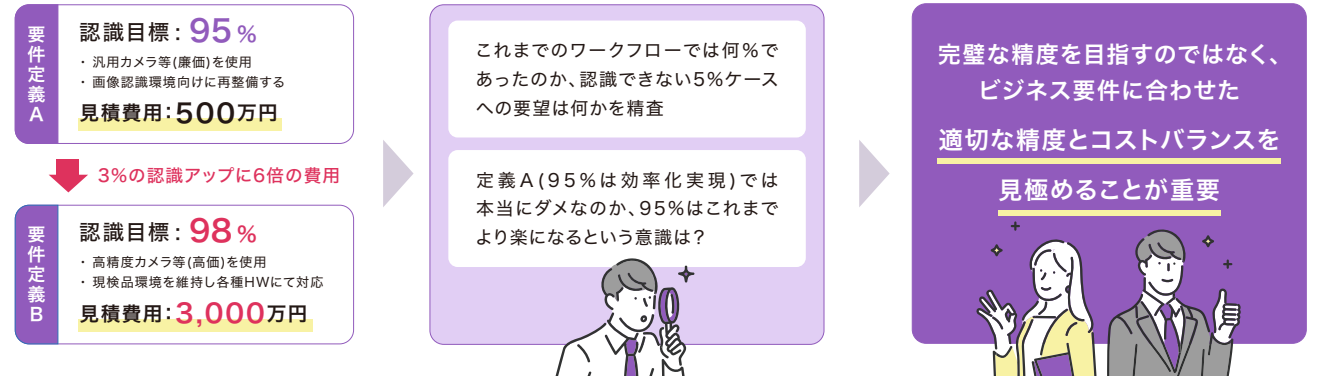
活動 集合ワークショップ、組み込みプロトタイピング

体験で使用した機材例



自作のAIモデルによる認識動作の体験

画像認識活用のポイント



「未来のAUTO-IDプロジェクト」の取り組み

青少年のための科学の祭典2026全国大会へ出展

JAISAでは自動認識の普及啓発事業の一環として、会員企業と共に新たな情報発信を行っています。
本年7月、『青少年のための科学の祭典』に出展し、たくさんの子供たちとご家族に自動認識システムを楽しく体験していただきました。出展は今年で3回目となります。

会期を通して体験教室A・Bともに満員となり、2日間で約200名の生徒(小学生中心)が自動認識システムを体験しました。ICタグの用途(乗り物、買い物、入退室等)や画像認識(スポーツ中継や防犯カメラ等)を知っている子供たちも多く、身近なところで使われている自動認識技術につよい関心を持っていました。

▶「青少年のための科学の祭典2026全国大会」

主催	公益社団法人 日本科学技術振興財団
会期	2026年7月25日(土)～26日(日) 9:15～16:00 入場無料
会場	科学技術館(千代田区北の丸公園2-1) 1Fイベントホール、野外
来場者	17,304名(昨年:12,783名)

展示・運営協力

- ・アビームコンサルティング株式会社
- ・オカバマーキングシステム株式会社
- ・株式会社サトー
- ・大日本印刷株式会社
- ・TOPPAN株式会社
- ・株式会社デンソーウェーブ
- ・東芝テック株式会社
- ・株式会社ハヤト・インフォメーション
- ・株式会社マーストーンソリューション

▼ 協賛



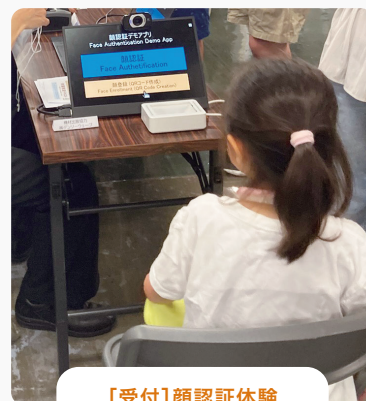
- ▶ 機材協力
- ・(株)デンソーウェーブ
 - ・(株)マーストーンソリューション
 - ・ゼネラル(株)
 - ・東芝テック(株)
 - ・(株)ハヤト・インフォメーション
 - ・TOPPAN(株)
 - ・(株)サトー



読み取り体験



手作り体験



【受付】顔認証体験

JAISAブースカリキュラム

体験教室 A テーマ:読み取り

- 自動認識の基礎知識講座(テキスト/スライド)
- バーコード、商品読取
- ICタグ 商品一括読取
- 画像認識
スマホで計数、異品チェック
- ICタグ宝探し
(個品探索)

体験教室 B テーマ:手作り

- 自動認識の基礎知識講座(テキスト/スライド)
- 光るICタグ制作
(銅線とLED)
- 電波を計る
- ICタグのキーホルダー
- QRコード付
オリジナル名刺発行

QRコード チャレンジ

QRコードパズル

予約受付 (成りすまし防止)

QRコード顔認証システム(受付)

自動認識総合展無料見学ツアー、第7回 AUTO-ID MeetUP ～若手社会人や学生が自動認識の最前線を体感～

会期2日目となる9月10日(木)、「自動認識総合展 無料見学ツアー 第7回 AUTO-ID MeetUP」を開催いたしました。

本企画は、次世代を担う学生(大学・短大・高専・専門学校)や若手社会人を対象に、DXを推進し社会の利便性向上に大きく貢献する自動認識技術の「今」を現場で直接体感していただくことを目的としています。本ツアーは午前と午後の計2回開催され、業界への理解を深めたい若手社会人をはじめ、自動認識関連企業への入社を控えた内定者など、将来の業界を支える多数の皆様にご参加いただきました。

本ツアーでは少人数のグループに分かれ、約90分間をかけて出展企業4～5社のブースを訪問しました。ツアー出発前にはオリエンテーションを実施し、自動認識システムの基礎知識や最新トレンドの概要をしっかりと理解したうえで各ブースへと向かいました。

多くの出展企業様のご協力のもと、各社のブースでは製品の担当者や開発者から最新ソリューションに関する詳細な解説をしていただきました。実機を用いたデモンストレーションを前に、参加者からは現場目線の活発な質問が次々と飛び交うなど、大いに盛り上がりを見せました。予定の90分があっという間に過ぎ去り、終了時間を過ぎても熱心に対話を続ける姿が見られるなど、終始熱気あふれる見学ツアーとなりました。



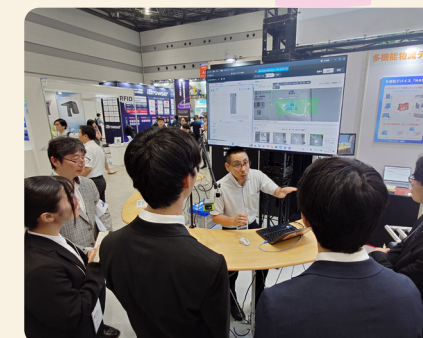
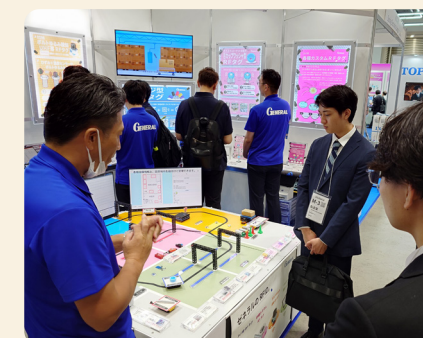
出発前のオリエンテーションでは自動認識の概要を説明



熱心にメモを取る様子も散見された



各社のブースでは、製品担当者や開発者からデモを交えた説明を受けた

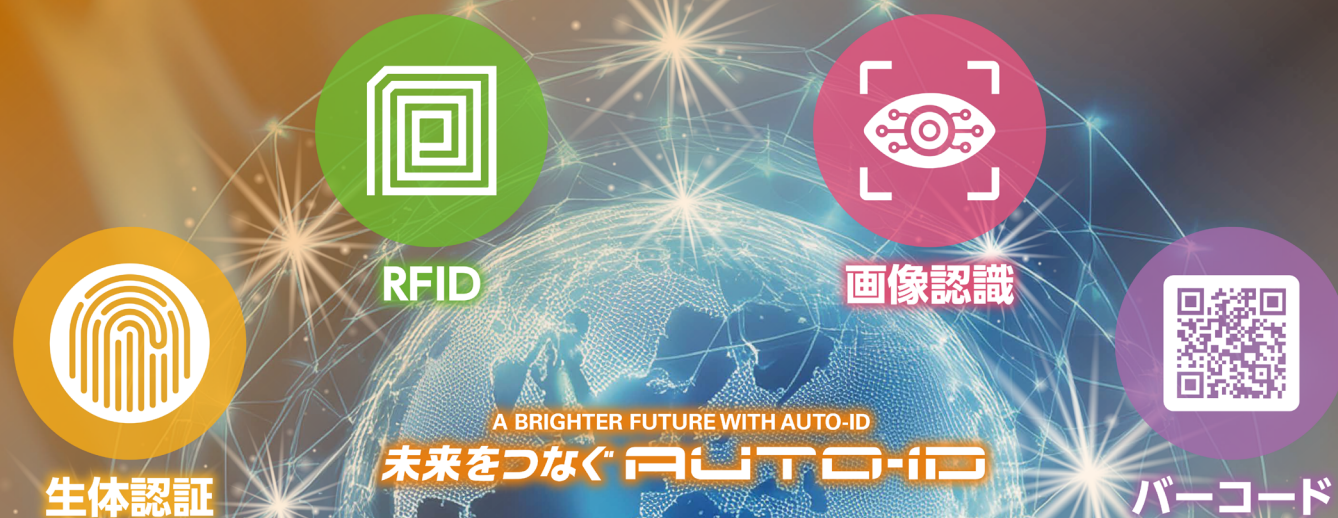


AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO
自動認識総合展

名古屋

2027. 2.25TH - 26^{FR} 10:00-17:00

名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール) 第1ファッション展示場



見える化から未来化へ。
自動認識が拓くDXの現場

入場無料 事前登録制

主催：一般社団法人日本自動認識システム協会

JAISA
Japan Automatic Identification Systems Association

公式サイトはこちらから



併催事業：BT Space 自動認識セミナー

www.autoid-expo.com

展示会事務局 (株)シー・エヌ・ティ 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-24-3-4F TEL. 03-5297-8855 FAX. 03-5294-0909 info@autoid-expo.com

標準化

生体認証

2026年度 自動認識技術者 資格認定講習・試験

多くの産業分野や私たちの生活で利用されている「自動認識技術」に関する知識を、提供する人と利用する人が、正しく学び習得するための技術者認定試験です。

自動認識基本技術者資格認定講習・試験	講習：オンライン形式(再視聴あり)	試験：集合形式(全国複数会場)
RFID専門技術者資格認定資格講習・試験	講習：集合 or オンライン形式	試験：集合形式(東京会場)

RFID

バーコード

自動認識技術者資格認定講習・試験概要

■目的

自動認識技術を活用したシステムの導入・改善などの技術的ニーズに、的確・迅速な対処ができるよう、エンジニアリング業務、システム業務、販売・販売支援業務に従事する自動認識技術者を育成・拡大するために、一般社団法人日本自動認識システム協会が講習・試験を実施し、合格者の認定・登録を行うものです。

■資格等級と対象者

●自動認識基本技術者資格

主要な自動認識技術である「バーコード・二次元シンボル」、「RFID」、「生体認証」、「標準化」の4科目の基本となる知識を習得します。対象は、自動認識システムに携わる企業の新入社員・中堅社員、学生、一般社会人などです。

●自動認識専門技術者資格

「バーコード・二次元シンボル」、「RFID」の各科目の専門的な知識を習得します。対象は、「自動認識基本技術者資格」を取得されており、さらに専門的な知識の習得を目指す方です。

■資格取得者の認定

資格取得者が自動認識技術に関する知識を習得していることを証明するものとして、当協会が登録証、登録証明書を発行します。また、資格取得者は当協会のWebサイトで氏名を公表しています。

※希望により非公開可



登録証見本

■講習・試験日程

●第56回自動認識基本技術者資格認定講習・試験

日程	講習(オンライン)		講習再視聴(オンデマンド配信)	試験(会場集合)
	7月2日(木) 10:30~16:30	7月3日(金) 10:30~16:30	7月4日(土)~10日(金) 24時間	7月11日(土) 13:30~14:50
受講科目	標準化 RFID	バーコード バイオメトリクス	全4科目	東京・大阪・仙台 4科目受験

●第57回自動認識基本技術者資格認定講習・試験

日程	講習(オンライン)		講習再視聴(オンデマンド配信)	試験(会場集合)
	11月5日(木) 10:30~16:30	11月6日(金) 10:30~16:30	11月7日(土)~13日(金) 24時間	11月14日(土) 13:30~14:50
受講科目	標準化 RFID	バーコード バイオメトリクス	全4科目	東京・名古屋・福岡 4科目受験

*自動認識基本技術者資格認定講習・試験では、講習から試験までの復習期間を延長して講習を再視聴できる日程を設けています。

●第21回RFID専門技術者資格認定講習・試験

講習：RFID (JAISA会議室・オンライン)		試験(会場集合)
日程	2027年2月4日(木)~6日(土) 9:00~16:00	2027年2月13日(土) 13:00~14:30 東京*

■受講・受験料

●自動認識基本技術者資格認定講習・試験

受験回数	一般	会員割引	学生割引料金	受験料(試験のみ)
1回目受験(テキスト有)	40,000円 (税込価格 44,000円)	30,000円 (税込価格 33,000円)	15,000円 (税込価格 16,500円) 毎回	10,000円 (税込価格 11,000円) 毎回
1回目受験(テキスト無)	32,000円 (税込価格 35,200円)	24,000円 (税込価格 26,400円)		
2回目受験(テキスト無)	15,000円 (税込価格 16,500円)	15,000円 (税込価格 16,500円)		

●RFID専門技術者資格認定講習・試験

受験回数	一般	会員割引	受験料(試験のみ)
毎回	50,000円(税込価格 55,000円)	40,000円(税込価格 44,000円)	20,000円(税込価格 22,000円)

■お問い合わせ

(一社)日本自動認識システム協会 事務局
Phone 03-5825-6651 ☒ license@jaisa.or.jp

www.jaisa.or.jp

JAISA
Japan Automatic Identification Systems Association

あなたの毎日は、 自動認識に守られています。

カードも使わずにゲートが開閉して、関係者だけが入館できる。

生産地・生産者がわかる、安全でおいしい食材が手に入る。

ネットで注文したものが、すぐに手もとに届く。

そんな安全・安心・快適な社会を支えているのが、顔認識、RFID、
バーコードを始めとする様々な認証技術と自動認識システムです。

その恩恵は、今日のあなたにも。



日本自動認識システム協会は、人々の生活の向上のため、新たな技術とシステムの開発を推進しています。

一般社団法人 日本自動認識システム協会 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1丁目9番5号 FKビル7階

<https://www.jaisa.or.jp/>



JAISA